日本招き猫大賞（2019）

【作品タイトル】
「猫神（ミョウシン）」

【作者の言葉】
江戸発祥～明治、大正、昭和、平成そして令和の平和を願い、世情を見守り続けて来た、にらみ猫 猫神(ミョウシン)
これからも、にらみ続けます。

【作家名】
よねやまりゅう / Ryu Yoneyama　(造形作家・人形師)

【作品概要】
サイズ：幅 35cm x 奥行 32cm x 高さ 65cm
素　材：FRP・ガラス

【プロフィール】
商業美術造形の傍ら異形の作品制作に取り組んでいます
1948 年 山梨県甲府市生まれ(横浜市在住)
1970 年 博物館、遊園地、CM.映画の商業美術造形に携わる
1982 年 クレボーグ第 1 回創作人形コンクール(次席)
1984 年 第 1 回日本オブジェ展(入選)
1986 年 東京ファッションウイーク人形アーティスト 56 人展
1987 年 ギャラリーせらーる個展(東京、新宿)
1989 年 渋谷西武工芸ギャラリー個展(東京)
1990 年 美術造形工房・有限会社オッドアイ設立
1997 年 第 1 回禁断の博物誌展(彩鳳堂画廊、東京)
2004 年 球体関節人形展 Dolls of Innocence(東京現代美術館)
2007 年 アートフェスタ東京(有楽町フォーラム)
2008 年 猫展(ギャラリー小暮、東京)
2009 年 異形の妖精たち 個展(奥会津、妖精美術館)
2016 年 ima 展 modern art exhibition 招待出展(東京都美術館)

【受賞理由】
　穏やかで優しい、明るく親しみやすい、ほのぼの可愛らしい。そんな属性がもて囃される風潮とは一線を画す、異形の猫。招き猫というキャラクターの振り幅の大きさを感じさせる。江戸時代の人々は、夜目が利く、足音を立てない、高い所から落ちても無事に着地するなど、猫の持つ不思議な力を招き猫という縁起物に託した。幸福を願う心は、江戸、明治、大正、昭和、平成、そして令和の新時代に引き継がれている。
　よねやまりゅう作「猫神（ミョウシン）」は、重量感のある体躯に甲冑をまとい、爪や牙も目立つ。細められた眼が敵を睨み据えている。金剛力士像のように、邪を払い、平和を護る頼もしい存在なのである。恐ろしげな様子だが、よくよく見ればどこか愛嬌も感じられる。さまざまな課題を抱えますます複雑化する現代には、このような力強い招き猫の加護が必要なのかも知れない。

【作品写真】